

1 自己評価及び外部評価結果

〔事業所概要(事業所記入)〕

事業所番号	4470204109		
法人名	社会福祉法人 生愛会		
事業所名	グループホーム ゲンジョウ		
所在地	大分県別府市大字鉄輪山ノ上594-9		
自己評価作成日	平成23年10月25日	評価結果市町村受理日	平成24年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

〔評価機関概要(評価機関記入)〕

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年11月24日		

〔事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)〕

☆職員の個性が活かされる職場で、職員それぞれが利用者のことを想いやっている職場です。
 ☆職員が利用者の立場になって支援を行うように、日頃から心掛けを行い一人ひとりが意識を持って支援しています。
 ☆支援方法・業務に疑問点、気づきがあれば、職員全員で話し合い、気軽に言いあえる職場です。
 ☆勤務ごとに役割分担があるが、その場の状況に応じて職員同士、協力し合い業務を行っている。

・暮らしの流れの中から利用者の希望や状況の変化を把握しており、記録は全職員で共有するために、独自に工夫され、わかりやすいものになっている。
 ・職員間の連携・協力が良くできており、努力・工夫しながら日常のケアを実践しており、毎日の温泉入浴やオムツを使用しない排泄介助などの取り組みに繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter) です。)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を掲げ職員の地域密着型サービスに対する理解は、昨年に比べて出来ているが、地域への行事参加や関わりが少ない為、実践に繋がっていない所がある。	理念はわかりやすく事務所に掲示され、職員は理念をふまえて日常の業務につなげる努力をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年、地区の盆踊りに参加するようになり、今年は民生委員の方の声かけで、民謡・カラオケ会を開催しています。日常的な交流までは至っていないが、今後も積極的な働きかけが必要である。	地区の盆踊りへの参加や、運営推進委員である民生委員の提案で、民謡のボランティアの訪問を受けるなど、地域のつながりを広げる取り組みを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を家族の方、地域の事業所、地区の民生委員の方に配布している。広報誌の中に認知症に関する事柄を掲載し、民生委員の方に配布する時に、詳しく説明するようにし認知症への理解を促している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問・意見・要望等を言ってもらよう働きかけを行っている。民生委員、地域の事業所の方には、ボランティアの協力や紹介を依頼し、実際にボランティアの受け入れも出来ている。	委員からの提案でボランティアの受け入れを実践したり、時勢に沿った議題を医師などの委員に話をしてもらい工夫をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録と一緒に、広報誌に掲載している事業所の活動や行事の報告を口頭で行い、昨年に比べ少しづつ情報の共有が出来ようになっている。	運営推進会議に市職員は出席しないため、運営推進会議議事録提出時に広報誌を持参して事業所の活動を報告するなど、事業所は積極的に働きかけを行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場会議で事例を用い、拘束をすることによりストレスや混乱を招くことを十分に理解してもらっている。また、その時々利用者の行動や想いを読み取ることが出来るようなケアを実践している。	職員研修の定期的な実施や、職員会議での事例検討を行っている。管理者はOJTの中で、その都度、職員に説明し、理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職場会議で事例をもとに勉強会を行っている。利用者に関する上での気構えや自己の感情のコントロールについても確認を行い、防止に努めている。			

事業者名: グループホームゲンジョウ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員が事例を使い、勉強会を開いたが、その時だけの説明では理解が薄く、現状では、支援できる体制が万全とはいえない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、専門用語は出来るだけ使わず、分かりやすいように説明し、退去に関しての不安感も軽減を図りながら十分に説明し理解・納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2度、家族会を開き直接意見を聞いている。直接言えない方もいるので、年に1度ご家族に無記名でアンケートを送り気軽に意見や要望を言えるように努めている。また、その時にでた意見や要望は職員全体で把握し、運営に反映させている。	利用者に対しては毎月担当職員が要望の聞き取りを行っている。家族に対しては年2回の家族会の開催と、年1回のアンケートを実施し、意見や要望を全職員で把握して、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の気づきやアイデアを聞き、反映しているが全てには把握しきれていない可能性がある。	職員会議やミーティング時、その他職員への気づきがあった際は、意見を聞き、玄関先に季節の花を増やすなどの取り組みにも繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の疲労やストレスの要因について気を配り、個々での相談にのっている。また、職員同士の間人間関係を把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修を月に1度行い、職員のケアに対する考えを確認している。また、力量に応じた助言や相談を行っている。職場外での研修に参加した場合は必ず職場会議で発表・報告を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市GH連絡協議会の活動のひとつとして他の事業所と合同で定期的に勉強会を行っている。そこで事例検討会などを行いサービスの質の向上に努めている。		

事業者名：グループホームゲンジョウ

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談で生活状態を把握するように努め、本人の想いに寄り添い、本人に受け入れられるような関係作りが出来るように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安に想っていること、困っていること、これまでの経緯について理解しながら聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思いや状況などを確認し、相談を重ねる中で、信頼関係を築けるよう努めているが、他のサービスに繋げた事例はない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活暦や性格を把握し、昔の話を聞いたり、好きなことを聞いたりし、不安を取り除くように努め、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態など面会時に伝えている。面会に来れない家族には、月に1度電話連絡をし、共に支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの場所を知り、ドライブのときに çıkかけている。馴染みの人との関係では面会に来てもらった時に継続して来ていただけるように働きかけを行っている。	利用者のかつての職場の同僚が年に3、4回訪問し、次回も来てもらいやすいような働きかけを行っている。また、馴染みの場所へドライブするなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について情報を全職員で共有し、仲が良い方同士でレク・グループワークに参加して頂いているが、その日の気分・体調で変化する事もあるので、その事を理解し支援している。居室で過ごすことが多い方は、居室でレク・グループワークを行っている。		

事業者名: グループホームゲンジョウ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、管理者がお見舞いに行くなどし、職員には近況の報告を行っている。また、家族からの相談にも応じている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	半年に1度、情報活用シートの見直しを行い、現状の利用者の把握がより出来るようになっている。また、日々のケアの中で言葉や表情で汲み取るようにしている。また、意思疎通が困難な方には家族に情報を得るようにしている。	ケアプランの見直し時や日常の関わりの中から利用者の要望などを聞き取り、利用者各自の入所までの暮らしぶりや、現在の暮らしぶりを詳細に記載した情報活用シートを作成している。シートは半年毎に見直し、利用者の総体的な把握を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報活用シートを作成するにあたり家族にはケアに役立てることを説明し、出来るだけ詳しく聞くようにしている。また、把握した情報は職場会議で共有しケアに役立っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、言動や行動から心身の状態を理解するように努めている。また、手伝いをしてもらうことで出来ること、出来ないことを把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前評価チェック表をもとに、担当職員・会議参加職員の意見やアイデアを反映した計画を作成している。全ての家族の意見を聞けてなく、見直した結果だけの報告になっている。	担当職員がケアプランの事前評価チェックでモニタリングを行い、それをもとに会議で話し合い、管理者がケアプランの作成を行っている。また、日々の記録はケアプランに沿った実施がわかりやすく記載されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録用紙を用意し、毎日ケアプランに沿った日々の様子を記録している。また、日中・夜間の日誌を用意し毎日記録し全職員が日々の様子を把握出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況や要望に応じて、通院の代行を行い負担の軽減を図っている。		

事業者名: グループホームゲンジョウ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センターの社会福祉士に参加してもらっており、地域の情報を交換している。月に1度、訪問理容サービス、週に1度パンの訪問販売、月に1回喫茶店に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前より、かかりつけ医のいる利用者に対しては、本人・家族の希望に沿っている。家族の状況により、職員が受診を代行することが多い。受診の結果は報告しています。	入居者の希望に添ってかかりつけ医を決めている。受診に際しては、大半を職員が支援をしており、受診結果は家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調・表情・言動などから、変化や気づいたことがあれば看護師に報告・相談し受診の判断を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者の普段の様子、支援方法の情報を医療機関に提供している。また、職員が交代でお見舞いに行き、回復状況や入院中の様子を聞き、全職員が把握できるようにしている。家族には、随時報告を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りについて事業所に対応出来るケアについて説明を行っている。	事業所の方針は文書化されており、入居時に利用者・家族に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場会議で緊急対応時マニュアルを実演し確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は2ヶ月に1度行っているが、事業所として地域との協力体制については、十分な協力のお願いや呼びかけが出来ていない。	2ヵ月毎に避難訓練を実施しており、夜間想定訓練も行っている。また、食料や水などの備蓄もある。	周囲に民家などがない立地ではあるが、地域との協力体制作りの工夫が望まれる。

事業者名：グループホームゲンジョウ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その時々合った気持ちを理解した声かけや、自己決定しやすい声かけ、尊厳を配慮した支援を行っている。	職員会議で定期的に話し合ったり、OJTの取組みとして管理者が対応する等している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の意見を押し付けずに、利用者が自ら選択できるような、支援を心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合はあるが、本人にとって必要なことについては、声かけを工夫し本人が不快に思わないように支援している。行事の日程などこちらの都合で決めることが多い。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事・外出時には、お化粧をしている。好みの色を把握し、好みに合わせたおしゃれができるように努めている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付けは一緒に行うようにしているが、拒ばれたりする時は、無理をしません。食事の時間には音楽をかけたり、声をこまめにかけたりして、明るい雰囲気ですべてもらうように働きかけをしている。	朝食以外のおかずは隣接の施設で調理しており、行事食や、週1回の手作りおやつは、利用者と協力しながら作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量・水分量は記録をつけ、職員全員で把握できるようにしている。摂取量が少ない方、偏食がある方には、果物・お菓子などを補食としてだすようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る所は、声かけ・見守りし、出来ない方に対しては、毎食後のケアを行い、肺炎や感染症の予防に努めている。			

事業者名: グループホームゲンジョウ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄のパターンを調べ、個々にあった間隔で誘導を行っている。トイレでの排泄を大切にしながらパット・紙パンツの使用は本人に合わせて使用している。表情からも、読み取りながら支援を行っている。	全ての居室にトイレが設置されており、各自の排泄パターンを把握しながら可能な限りトイレでの排泄を実践している。要介護5の利用者も含めて、日中は全員オムツを使用していない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日の水分量は、食事以外で1000cc以上を目標に摂取を促している。食事量・水分量が少ないと声をかけを工夫しすすめてます。便秘がちの方には、入浴時に腹部をマッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日入れるようにしている。毎日、入浴することが苦痛に感じないように無理せず、本人の希望を尊重し支援を行っている。拒否がある場合は時間をずらし、再度声かけを行っています。2、3日拒否が続く場合は、他の職員代わって対応している。	温泉があり、入浴を毎日行っており、男女や個人の入浴の順番を配慮したり、入浴の拒否のある方については職員で協力しながら対応を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ、日中の活動を促し生活のリズムを整えるように努めている。その日の体調・希望を考慮し休息がとれるように支援している。夜間、寝つきが悪い方には、温かい飲み物を飲んでもらい寝つきやすい環境作りを行っている。睡眠のパターンの決まっている方には、本人の生活リズム		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や副作用の説明をファイルし、お薬手帳でも閲覧・確認できるようにしている。また、薬の効き具合は随時、医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、本人が出来ることはしてもらえようように支援している。また、書道や縫い物など、その方の得意なことを把握し、行ってもらっている。その他はドライブや、屋外行事で気分転換ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、買い物は行きたいと希望された方は希望に添えるように、出来るだけいけるようにしている。年に1度、近場の劇場に行く事もある。	利用者の希望を聞きながら月1、2回程度買い物やミカン狩りなどのドライブに行っており、庭や外回りの散歩は可能な限り行っている。	

事業者名：グループホームゲンジョウ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は職員が管理、支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字が書ける利用者は書いてもらい、書けない利用者は代筆して年賀状は毎年出しているが、日常的に手紙のやりとりはできていない。電話は希望があればかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった、生け花をホールに飾り、玄関には鉢植えを植えている。天井には、日差しよけに飾りをつけ生活感や季節感がでるようにしている。四季ごとにより、ホールの飾り付けを変え、行事の写真をホールや居室に飾り、差し替えている。	壁には職員が工夫した季節感のある飾りつけや、利用者の生き生きとした写真などを掲示してある。玄関やホールには季節の花が生けており、季節感が感じられる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にはベンチを置き、ホール内には食事の席以外でソファをいくつか置き落ち着いてくつろげるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物などを本人・家族の方に聞き居室に置くようにしている。持ち込みの少ない方には、壁に行事の写真を貼り温かい雰囲気や、くつろげるような環境作りを行っている。	居室には馴染みの家具・趣味の道具や洋服、写真の掲示などがあり、利用者各自の個性を尊重したものとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態や状況に応じて、出来ること・出来ないことを見極め、家具の配置変更を行っている。居室で歩行器や車椅子使用している方は、動きやすいように家具配置している。		